

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-137	15-115	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
<b>題名 (原題/訳)</b>		
<p style="text-align: center;">Associations of Mental Health and Substance Use Disorders With Presenting Problems and Outcomes in Older Adults' Emergency Department Visits.</p> <p style="text-align: center;">救急外来を受診する高齢者におけるメンタルヘルスおよび薬物・アルコール使用障害に関連した諸問題と治療転帰</p>		
<b>執筆者</b>		
Choi NG, DiNitto DM, Marti CN, Choi BY.		
<b>掲載誌</b>		
Acad Emerg Med. 2015 Nov;22(11):1316-26. doi: 10.1111/acem.12803.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
高齢者、メンタルヘルス、アルコール、薬物、救急外来		26473592
<b>要 旨</b>		
<p><b>目的：</b> 救急外来を受診する高齢者のメンタルヘルスおよび薬物・アルコール使用障害について、問題や患者の転帰について検討した。</p> <p><b>方法：</b> 米国における 2012 年の Nationwide Emergency Department Sample (65 歳以上の 5,344,743 件の受診記録) を用いた。メンタルヘルス、薬物・アルコール使用障害と自殺企図、転倒、外傷との関連についてロジスティック解析を行った。さらに、死亡、入院、介護施設への転送、在宅治療、医師の指示に従わない治療中断、受療先不明、治療拒否などの救急外来受診の転帰との関連について多項ロジスティック解析を行った。</p> <p><b>結果：</b> 高齢者による救急外来受診の 5.1%は不安障害、7.1%は気分障害、10.45%はせん妄または認知症、1.4%はアルコール使用障害、0.6%は薬物使用障害、0.2%は自殺関係、12.0%は転倒、10.2%はその他の外傷であった。メンタルヘルスおよび薬物・アルコール使用障害は自殺企図に中程度以上の影響を与えていた (アルコール使用障害の調整オッズ比=6.58, 95%信頼区間=5.33-6.06)。アルコール使用障害、認知症またはせん妄の罹患は転倒に対して軽度の影響を与えていた (アルコール使用障害の調整オッズ比=2.93, 95%信頼区間=2.86-3.00)。アルコール使用障害および薬物使用障害は医師の指示に従わない治療中断に軽度の影響を与えていた (アルコール使用障害の相対リスク比=2.35, 95%信頼区間=2.19-2.53)。</p> <p><b>結論：</b> 高齢者のメンタルヘルスや薬物・アルコール摂取は意図的な自傷行為および非意図的な外傷による救急外来受診の危険因子であり、より高度で長期的な治療を必要とする転帰と関連があった。これらの知見から、高齢者のメンタルヘルスや薬物・アルコール使用障害に対する対策が重要と考えられる。</p>		